



研修便り



高知市教育研究所教職員研修班
平成25年11月28日発行 No.38

「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

専門・教育課程 選択研修 N I E実践研修会 平成25年8月13日（火）実施

講師：高知新聞社メディア技術局 情報メディア部 小笠原雄次 部長

NIEとは，Newspaper in Education の略で，学校などで新聞を生きた教材として教育に活用すること。

キー・コンピテンシー…OECD（経済協力開発機構）のPISA調査によって示された日本の児童に必要な**主要能力**。さらに，「**社会人基礎力**」とも共通する部分がある。

「社会人基礎力」を構成する3要素

①前に踏み出す力 【Action】	②考え抜く力 【Thinking】	③チームで働く力 【Teamwork】
◎ 主体的 ＝進んで取り組む力 ◎ 働きかけ力 ＝人に働きかけ巻き込む力 ◎ 実行力 ＝目標設定し，確実に行動する力	◎ 課題発見力 ＝現状分析，目的や課題を明らかにする力 ◎ 計画力 ＝課題解決に向けプロセスを準備する力 ◎ 創造力 ＝新しい価値を生み出す力	◎ 発信力 ◎ 傾聴力 ◎ 柔軟性 ◎ 情報把握力 ◎ 規律性 ◎ ストレスコントロール力

新聞を活用することで，
「生きる力」「キー・コンピテンシー」「社会人基礎力」を高めることが期待できる。

良い問いを立てるために情報を取り込む。

NIE活用は先生から

新聞掲載記事を，
「考える」材料にする。

「考える」とは…
＝自分の中に良い問いを立てること。

例：
「A校が新しい取組を始めた」記事
↓
・ 自校に取り入れられるか？
・ どんな価値を児童・生徒に提供できるか？
などを考えてみよう。

活字が想像力を鍛える

- ・ 情報量は，活字＜画像＜映像の順で増加
- ・ 情報量が少ないほど，脳は想像力で補って考える。（これは人間だけがもつ能力）

記事から気付きを得て，考える練習をしよう！

（演習Ⅰ）

にゅーすけバトル

ビブリオバトル
をもとに考案！

ビブリオバトル

本の書評バトル。自分が読んだ本の書評を相手に読んでみたいと思わせるように言葉だけで伝える対決。全国大会も行われている。傾聴することで聴く力も身に付く。

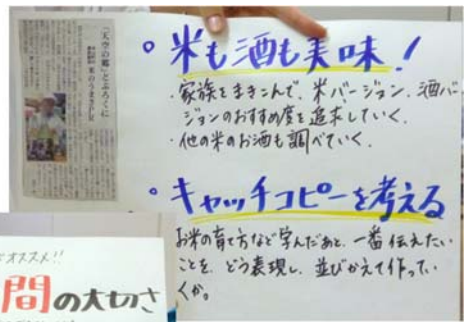
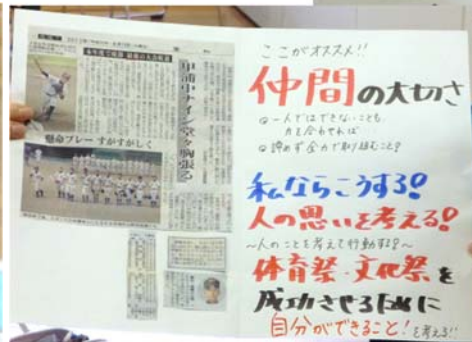
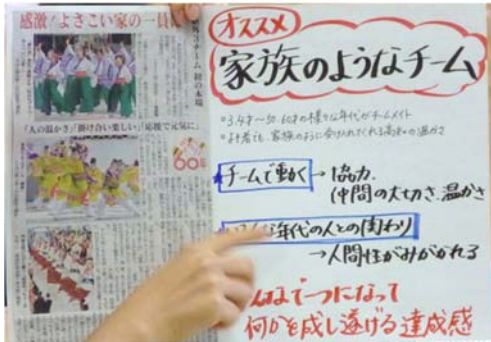
- ① 今日の新聞から，心に響いた記事を切り抜く。
- ② 紙を左側に貼る。
- ③ 「ここがオススメ！」の見出しと，記事ヒントに「私ならこうする」の2本を右に大きく書く。



にゅーすけバトル☆スタート

一人ずつプレゼンテーション

「なぜ、この記事を選んだのか。」
「オススメポイントはズバリ、ここ」
「自分なら〇〇をして△△して…」 など



回覧 & シェアタイム

時計回りに、それぞれ紙を回して回覧。一段落したら、感想 & 質問をし合う。

評価タイム

相互評価タイム

全体でシェアリング

(演習Ⅱ)

はがき新聞を作ろう！

NIE導入の王道・・・それが“はがき新聞”



はがき新聞のメリット

- ・ 小さい、扱いやすい。
- ・ 小学校低学年から始められる。
- ・ 授業で学習したこと、行事や休みに中に体験したことなどをまとめられる。
- ・ 文字の大小・分量、イラスト、漫画、写真使用などを自由に決められる。
- ・ 自由に編集、レイアウトし、プレゼン & シェアすることで言語力・表現力・コミュニケーション力の向上が期待できる。

はがき新聞のネクスト・ステップ

- ① 編集力をアップ
【▽見出し▽記事▽写真・図▽広告】
- ② デジタル化
【▽朝刊太郎▽動画を埋め込む】
- ③ ジャーナリズム性
【問題提起型にする】



新聞のつくり、読み方

新聞は大きく四つの情報からなる。

- ① 記事
- ② 見出し
- ③ 写真・図
- ④ 広告

☆最も重要なのは「見出し」、次に「記事のリード」(5W2H入り、記事の肝)。新聞記事は逆三角形でできている。

【受講者の感想】

本日の小笠原先生のお話から「良い問いを立てる」教師の力量の大切さも学んだ。また、人として生きる力(前に踏み出す力)が求められる今日、入試や論文、面接等で、自分のことを全く知らない人にアピールできるように、新聞の活用を一つの手段として考えてみたいと思った。記事を見て、いろいろな変化に気付けるよう、常にアンテナを張っていきたい。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。